

レポートNo.3

古来、「楷書は立つが如く、行書は歩むが如く、草書は走るが如し」などと人の形態に例えられています。楷書は一点一画を切り離して書くので書くのに時間がかかります。草書はもともと速書を目的とし、点画が極端に省略されているので、速く書ける反面判読が難しいです。行書は楷書より速く書いて草書よりも判読が容易であるという特性を持っています。また、行書は楷書に近いものから草書に近いものまで幅が広いので、書く人の個性が強く反映しやすい書体です。

\*このレポートは自由課題の半紙提出があります。出さなくてもレポートは合格になりますが、なるべく取り組むようにしてください。

問一	教 P38 を見てください。
問二	<p>教 P39~51 を見てください。</p> <p>① 『蘭亭序』は、流觴曲水の宴で詠まれた詩をまとめた詩集につけられた序文です。ちなみに、流觴曲水(りゅうしょうきょくすい)の宴(小川のほとりに各々が座り、詩を詠みお酒を飲む遊び)に 41 名が参加して、そのうち、詩が二首できたのは王羲之はじめ 11 名、一首できたのは 15 名、(息子の)王献之など 16 名は詩を作ることができず、罰としてお酒を三斗飲まされたそうです。度量衡が現代と全く同じかどうかは知りませんが、恐ろしい罰ゲームです。</p> <p>② 『争坐位文稿』を書いた顔真卿は前回のレポート (No.2 漢字の書・楷書) で学習した『自書告身』を書いた人です。学者を輩出する名家の出身ですが、安史の乱が起こった時に義兵を挙げ、唐王朝に忠義を尽くしました。その後の李希烈の謀反の時に捕らわれて、三年後に殺害されました。</p> <p>③ 自分が感じたことを答えましょう。教科書に載っている特徴などをそのまま書いてはいけません。</p> <p>④ 風信帖の筆者空海は、入定(死)後弘法大師という諡号を賜ったので、そちらの名前で覚えている人もいられるかもしれません。空海には逸話が数多く残されており、「弘法も筆の誤り」や「弘法筆を選ばず」等のことわざもあります。三重県にも弘法大師ゆかりの井戸などが各地にあります。</p> <p>⑤ 「三筆」 語句説明のページを調べましょう。</p>
問三	<p>問二で学習した『風信帖』を半紙に臨書して提出してください。</p> <p>① 表現の特徴はわかりやすくまとめてください。</p> <p>書き出しの「風信雲書」の四字を半紙に臨書(半紙の右の行に「風信」左の行に「雲書」)して提出してください。クラスと名前を書くのを忘れないようにしましょう。</p> <p>*これは自由課題です。</p>
問四	自分の名前を行書で書く問題です。教科書、学習書を参考にして書いてみてください。少々下手でもいいので、ネットなどを頼らず自分で考えてみましょう。行書の書き方を理解しているかで【知・技】を、行書らしく滑らかに書けているかで【思・判・表】をみます。